

メタセコイア (土屋中学校の樹)

< 学校教育目標 >
夢に向かって
～生徒には夢を 保護者には感動を 職員には技を～

第 10 号

令和 7 年 2 月 3 日 発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋 1 7 6 6 - 1

TEL 0 4 8 - 6 2 2 - 4 6 1 1

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

厳にして慈
～ほんとうの優しさとは～

校長 澤田純一

寒い日が続きます。特に朝夕の冷え込みは酷寒であることを季節が告げてくれます。一年を通じて暑い日もあれば寒い日もある。これもまた良しと四季を楽しむことにしています。このように、日本にはすばらしい季節があり、その時々を楽しむとともに生きている意義を感じるのです。我が家のプルートはこたつの中で丸くなり、フィガロは外を駆け巡っています。なんだか逆であるのに、真逆の生き方もまたよしだと思います。プルートもフィガロもそれぞれ犬、猫の一生を楽しくまっとうしてもらいたいものです。

さて、肌を刺すような北風が吹くこの時節、毎年思い出すことがあります。本日は、私が警察官の頃の話をしてしましよう。私は、警察学校を卒業し東村山警察署に配属となりました。昭和 63 年 12 月のことです。実務を先輩から教えていただく日々が続きそれは充実した時を過ごしていました。何もかも初めての経験でしたが、できないこと、分からないことさえ新鮮でありました。戸惑いもありましたがそれでも、市民を守る使命感は人一倍あったと思います。そのような満々たる時を過ごしていましたが昭和 64 年 1 月 7 日のことでした。「天皇陛下崩御」という知らせが入り、ここから 2 ヶ月後の「大喪の礼」（天皇陛下の御葬儀）にむけ任務に就くこととなります。それは、世界各国から大統領や首相などいわゆる VIP が弔問に来日されるのため、警察の威信をかけた史上最大の警備と呼ばれていました。私は急遽第八方面機動隊に配置となり、横田基地（米軍の空軍基地）の警備に就くこととなりました。ここでの任務はアメリカのブッシュ大統領を乗せた専用機が来日の際に着陸する場であったため安全を確保することが使命となります。飛行機の離発着の爆音もはっきり覚えていますね。基地の中は勿論、外周に爆弾などの危険物が仕掛けられていないか警備は続きます。約 2 ヶ月の間、激務でしたが横田基地の警備は終了しました。そして、当日（2 月 24 日）は、青梅街道の沿道警備（30 メートル間隔での立哨警備）に着きました。気温も低く、しとしとと冷たい雨が降っていましたね。そしてこの日は、公休日（学校やデパートなども休み）となっており、沿道には身動きができないほど多くの人々が立ち並びました。まもなく昭和天皇の霊柩を乗せた車を中心として車 30 台、サイドカー 30 台、全長 800 メートルにわたる葬列が近付いてきます。寒さを忘れるくらい緊張しました。そのような中、ふっと沿道に目をやると群衆の中で高齢の女性がひざまずいていました。どうやら転んでしまったようです。なかなか立ち上がることができません。私は助けに行くか否か迷っていました。警察官は任務中に勝手に持ち場を離れることは許されないのです。そんな時「澤田巡查、行ってやれ！」と小隊長の命令がありました。私は直ちに、高齢の女性に駆け寄り手を差しのべました。そこには「お巡りさん、ありがとうございます」と痛みをこらえた笑顔がありました。どうやらこの高齢の女性は、遠方からこの日のために長い時間をかけてやってきたとのことでした。

葬列を滞りなく無事に通過させることの任務と、目の前の困っている人を助ける行為との葛藤の中で、小隊長の命令は粋なはからいであったと思います。いや、私の迷っている心を見透かして、「人間かくあるべし」との思いで命令したのだと震撼させられます。きっとそうにちがいないと……。普段は厳しい鬼の小隊長さんでした。私はこの任務を通して「厳にして慈」という大切なことを身をもって学んだのです。

これは 35 年以上も前のダイバーシティとかインクルージョンという言葉が使われていない、昔々の話です。人が人を大切にすること、それは表面的な言葉で表すことではなく普遍的なことであると思うのです。使命感、責任感に裏打ちされた優しさが大切であると改めて気づかされますね。この小隊長は私の憧れです。いつの日か生徒の皆さんに「校長は厳しいけど、優しいね」そう言われるよう人間修業は続きます。間違っても、厳しくもなく優しくもなく、使命感・責任感のない、いわば生徒の上にあぐらをかいているような歳の重ね方はしたくありません。それでは人を教育はできませんし、みなさんに対して失礼極まりないですね。何しろそんな校長では皆さんのことを守れませんからね。

昭和が終わり平成を経て時代は令和へ。三時代を生き抜いてきた男の独り言ですが、私は「人間教育日本一の学校」を目指します。もちろん、できるに決まっています。スーパー 60 歳を舐めてはいけません（笑）。皆さんはこれからの時代を担う日本の宝です。歳は違えど、そんな皆さんと共に成長・進化していけることが最高の幸せであり、まさに私にとって本懐を遂げることなのです。

今日の話はこれでおしまい。3 年生は進路決定に、2 年生は自然の教室に、1 年生は校外学習に向けてしっかり体調管理をしてくださいね。それではまた元気にお会いしましょう。